

事後評価報告書(日中(MOST) 研究交流「気候変動」)

**1. 研究課題名:「北東アジア域のブラックカーボンの発生、輸送過程の解明と気候影響に関する研究」**

**2. 研究代表者名:**

2-1. 日本側研究代表者: 東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 教授 近藤 豊

2-2. 中国側研究代表者: 清華大学 環境科学工学科 教授 ハオ ジミン

**3. 総合評価:( B )**

**4. 事後評価結果**

**(1)研究成果の評価について**

本課題では、ブラックカーボンの観測網を日本および中国に設置し、通常はデータが取得困難な発生源近傍、特に北京におけるブラックカーボンの観測データを取得している。また、ブラックカーボン輸送の下流域と同一測定器で同時観測することにより、この輸送過程の解明が進んだことは大きな進展と思われる。当初の研究目的にあるブラックカーボンの輸送過程の全球への影響評価についても IPCC での第 5 次報告書等に報告している模様であるが、本事業の日本側と中国側が当初の計画をどの程度達成したかについて、もう少し判りやすく本事業の報告書に説明があれば良かった。今後、本研究交流の成果が新たな政策提言に繋がることを期待したい。

**(2)交流成果の評価について**

ブラックカーボン観測装置のトレーニングやトラブル発生時の迅速な対応など、日中研究者が両国の研究スキルやシーズを考慮し、効率的な研究を進めたことは評価できる。

一方、国際状況の変化が影響したとはいえ相互訪問が比較的少ない様に思われる。中国側研究チームからの来日実績は平成 21 年度に 2 回、中国側研究チーム以外からの来日実績が平成 23 年度に 1 回となっている。より活発な相互訪問を実施した方が相互理解もより深まったと思われ、この点は残念な結果である。

**(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)**

本課題の研究成果を通じ、第 40 回地球化学研究協会学術賞「三宅賞」ほか 2 件を受賞したこと、さらに関連するワークショップ、セミナー、シンポジウムなどの開催や参加回数が 24 回と数多い点は高く評価できる。また日中研究者による共著論文(2 報)が発表されており、関連する論文数も 42 報と数多く発表されている点は評価できる。一方、日本側と中国側の連名で学会発表された機会がやや少ないと思われる。